

記念交流会

「令和の日本人とは」国文学者・中西進氏講演

日本人の忘れもの
知恵会議
 未来を拓く京都の集い

次世代へのメッセージを考える京都新聞のキャンペーン「日本人の忘れもの」知恵会議の記念交流会が10月7日、京都市内のホテルで開催され、新元号「令和」の考案者である国文学者、中西進氏が講演した。中西氏は日本文化を約100年ごとに「古代・中世・現代」と捉え、武家政権が誕生するまでの古代で日本人の伝統的感情が育まれ、黒船来航までの中世で知性が開花し、現代は意志を強固に打ちつくる時代とした。そして、「令和」の「令」には「善」の含意があるとし、現代は個人に内在する意志をもって、善を追求していく時代であると説いた。



令和は「令」が意味する「善」を追求する時代に語る中西進氏
 (京都市中京区、京都ホテルオークラ)

意志の力で善追求を

下から読めば「やまとしうるわし」

新元号「令和」は基本的に、和の精神に満ちた麗しい大和の国を意味していると私は理解しています。かつて明治維新を迎え改元が決定したとき、批判精神旺盛な江戸っ子たちは「上からは明治だなどと言っけ、治明(おさまるめい)と下からは読む」とからかい半分に狂歌を読んだものでした。

「令和」の響きからさまざまな連想がもたらされるからすれば「やまとしうるわし」となるのではないのでしょうか。はるか昔、遠国を次々と



京都を代表する文化人や経済関係者ら150人が中西氏の講演に耳を傾けた

「善」という解釈が出てき、訓読みは解釈がかなり広い。「よ」は「よし」として「美しい言葉」の意になります。善は儒教の大典『論語』にも頻りに登場することから、中国は論理に重んじ、言語に美を見いだしていたと言えます。つまり「美しい言葉」を善と考へ、最高の美德としたのです。

日本では古来、大和言葉の表現方法からも分かるように、伝統的に論理性よりも愛情に価値を置いてきました。その点、全知全能神の愛を説く西洋発祥のキリスト教思想と通じ合うものがあります。仏教に目を向けると、愛の苦しみから逃れるために、いかに愛を捨てられるかが出発点でしたが、釈尊は入滅前に「晴朗」といわれる境地に達し、愛欲を持つ人間も含め全てを愛する教えを説くようになりました。

私は、小泉純一郎氏が首相だった当時、外来語を日本語に置き換える委員会が仕事をしていたことがあります。そこで最後まで日本語にしようとした英語は「publicity」や「identity」でした。これらの単語を持つ概念が日本には存在しなかったからです。中国語の「令」も、当時の日本に該当する概念がなく、抜き添った意味を持つ言葉だったのです。結果、音読みの「レイ」だけが一般的に広

「冷」の字と同義になるとの批判的意見もありますが、「艶」を加えて使われる中国由来の言葉「冷艶」は、つやを発して美しいさまを表し、室町時代の高僧、心敬は「氷ばかり艶なるはなし」と冷たい氷の比喩なき麗しさをたたえました。

「令」の用法で一つ、「論語」に登場する「巧言令色」は巧みな言ひ回しと良い人を装うことで、感心しない例とされました。ただ、文を徹底的に工夫し飾ることで生き生きとした文章をつつた天才作家、太宰治は「われは巧言令色を欲する」と良い意味で語っていることも付け加えておきましょう。

時代ごとに目指すべき「価値目標」

善に関わることをもう少し掘り下げてみます。日本人の倫理行動の中で、いったい何が善とされてきたのでしょうか。平安時代に完成した『続日本紀』には天皇の詔を意味する「宣命」が記載されており、倫理意識として必要なものとして、「清・明・直」の三つが挙げられています。

「清」は心が清らかであること、「明」は知性が伴っていること、「直」は真つすな意志があることを示します。つまり情において清、知において明、意志において直であること、これはギリギリで人間の修養において重要な

とされる「知情意」と見事に一致します。いにしえよりわが国も素晴らしい知見を培ってきたのであり、感銘を受けずにはいられませんでした。

この「知情意」が歴史の中を巡ってきた流れについて私は、大きく700年ほどの期間ごとに「古代・中世・現代」に分けて考えます。古代とは、仁徳天皇の治世の5世紀ごろから、鎌倉幕府が成立し武士による政治支配が始まる12世紀までを指します。中世は、武士政権が長く続き、明治維新を迎えるまで続いた19世紀までを指します。現代は、江戶時代を中心とした飛躍的に発展してきた期間を指し、関孝和をはじめ盛んに研究された和算は世界一級の水準でした。外科医の華岡青洲が始めた開腹手術も世界初の快挙であり、天文学分野での緯度計算などは世界トップクラスを走っていたといわれます。江戶時代は、政治的に安定した社会の中、日本が独力で知の世界を進化させ続けた時期でもありました。

アメリカのペリー艦隊が日本に現れ現代に入ります。西洋文化の流入が加速、「自分の意志を持ちなさい」「個性を大事にしなさい」と、日本社会では伝統的に必要とされなかつた行動が強く求められるようになってきました。平安朝で知性が加わったとする、現代に残るのは意志の力を鍛えることでしょうか。

それぞれの時代には目指すべき価値目標がありました。情の文化を昇華させた平安朝では美が追求された結果、数々の芸術が生まれ、知の時代では科学をはじめとして真実の探求が行われました。「真

善美」という古代西洋から続く普遍的概念のつとを求めれば、現代のわれわれが求めたいべきは必然的に善になります。

善といえは、京都大の哲学者、西田幾多郎に言及しないわけにはいきません。彼は生涯をかけて執筆した『善の研究』の中で、「個人的善に最も必要な徳は強盛な意志である」と説きました。最高に価値あるものは善であり、し、そこには強い意志の力が不可欠と喝破した西田は誠に慧眼と言つべきでしょう。

もう一人、京都出身の経済学者、大塚久雄は「ある客観的な目的あるいは理想の実現を目指すには、自己の精神的ならびに肉体的エネルギーの全てを集中的に放出しようとする訓練された生活態度」が求められると主張しました。



drawing the future of Tomorrow

私たちは「日本人の忘れもの 知恵会議2019」に参加しています。

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| アサヒビール株式会社 京滋統括支社 | 株式会社 京都銀行 | 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹 | 株式会社 中澤ホールディングス | 富士ゼロックス京都株式会社 |
| 株式会社 石田大成社 | 学校法人 京都産業大学 | 株式会社 ジェイアール西日本ホテル開発 | 西川株式会社 | 佛教大学 |
| 一澤信三郎帆布 | 京都信用金庫 | 株式会社 JTB 京都支店 | 西日本電信電話株式会社 京都支店 | 株式会社 プリンホテル |
| 株式会社 井筒企画 | 京都青果合同株式会社 | 香老舗 松栄堂 | 西日本旅客鉄道株式会社 | 平安神宮 |
| 石清水八幡宮 | 京都橘大学 | 株式会社 聖護院八ッ橋総本店 | ニチコン株式会社 | 株式会社 増田医科器械 |
| 上原成商事株式会社 | 京都中央信用金庫 | 株式会社 しょうざん | NISSHA 株式会社 | 株式会社 マツシマホールディングス |
| 裏千家 今日庵 | 株式会社 京都東急ホテル | 株式会社 進々堂 | 日新電機株式会社 | 三井不動産株式会社 京都支店 |
| ANAクラウンプラザホテル京都 | 京都ブライトンホテル | 株式会社 SCREENホールディングス | 日本新薬株式会社 | 京福石 美濃吉 |
| SGホールディングス株式会社 | 株式会社 京都ホテル | 成基コミュニティグループ | 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 | 村田機械株式会社 |
| 株式会社 NTTドコモ | 京都薬品工業株式会社 | 星和電機株式会社 | 日本たばこ産業株式会社 北関西支社 | 株式会社 村田製作所 |
| 株式会社 大垣書店 | 清水寺 | 積水ハウス株式会社 京都支店 | 学校法人 二本松学院 京都美術工芸大学 | 彌榮自動車株式会社 |
| 大阪ガス株式会社 | キンピール株式会社 京滋支社 | 総本山 醍醐寺 | 株式会社 仁和寺 | 株式会社 ヤナセ |
| 大谷大学 | 株式会社 きんでん 京都支店 | 株式会社 大丸松坂屋百貨店 | 野村證券株式会社 京都支店 | 株式会社 ユーシン精機 |
| オムロン株式会社 | 株式会社 京阪ホールディングス株式会社 | 大和ハウス工業株式会社 京都支社 | ハイアットリージェンシー 京都 | 学校法人 立命館 |
| 株式会社 オンリー | 月桂冠株式会社 | 株式会社 高島屋京都店 | 株式会社 ハトヤ観光 | 学校法人 龍谷大学 |
| 柿本商事株式会社 | 株式会社 公益社 | タキイ種苗株式会社 | 株式会社 PHP研究所 | 株式会社 ロマンライフ |
| 北野天満宮 | 佐川印刷株式会社 | 株式会社 たけびし | 株式会社 日立製作所 京都支店 | 株式会社 ワコールホールディングス |
| 京セラ株式会社 | 株式会社 三笑堂 | 東京海上日動火災保険株式会社 | 平等院 | ワタキューセイモア株式会社 |
| 京都駅ビル開発株式会社 | サントリー酒類株式会社 京都支社 | 株式会社 トーセ | 株式会社 福寿園 | |
| 学校法人 京都外国語大学 | ジーク株式会社 | TOWA 株式会社 | 株式会社 フクナガ | |